

看護補助者への教育・研修

1. 医療に関する知識
- ・医療制度の概要
 - ・各医療機関の機能と役割
 - ・看護補助者が働く場に関係する事項について
 - ・医療に関する用語について

2. 基本姿勢と態度

看護補助者としての自覚と責任ある行動	看護師との協働(看護師の監督のもと、働く者の責務)
	・依頼されたことを正確に理解する
	・補助者の役割および業務範囲を(業務内容と責任範囲)を理解する
	・患者からの依頼や質問を受けた場合、看護師に報告・相談し、対応する
	接遇
	・院内で、患者・病院関係者・関連業者などに挨拶をする
	・消えられた服装(ユニフォーム・靴)を着用し、身だしなみを整える
	・セクハラ、パワハラをしない。偏見をもたず、差別用語等は使わない
	倫理
	・医療にたずさわる者の自覚を持ち、患者を尊重する姿勢と態度を示す
・嘘をつかない。約束を守る	
個人情報保護と守秘義務	
・患者の氏名・病名・入院日・住所等、個人が分かる情報を実名でメモしない	
・仕事で使用した“患者の情報が書いてある用紙”は、絶対に持ち帰られない	
・患者が医療をうける上で必要な情報以外は院内でも院外でも話さない。もらさない	
・患者の情報は、本人の同意なしに他者にもらさない。(家族でも/電話でも対面でも)	
患者の理解と患者・家族との良好な人間関係の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の話を理解し、言いたいこと(意味)を適切に把握する ・患者を一個人として尊重し、ありのままを受け入れる態度で接する ・ケアを補助する(実施する)時には、患者・家族に声をかけてから行動する ・患者中心のサービスであることを認識し、患者・家族に接する
組織における役割・心構えの理解と適切な行動	<ul style="list-style-type: none"> ・病院及び看護部の理念を理解し行動する ・病院及び看護部の組織と機能について理解する ・チーム医療の構成員としての役割を理解し協働する ・患者・家族等への対応が患者満足に反映することを知る ・同僚や他の医療従事者と安定した適切なコミュニケーションをとる
障害にわたる主体的な自己学習の継続	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価及び他者評価を踏まえ、良くなるように課題を改めようと努力する ・研修で学んだことを仕事に活かす努力をする

3. 業務遂行に必要な知識・技術

項目	具体例	業務範囲
環境調整に関する基礎知識と技術	温度、湿度、換気、採光、臭気、騒音等の環境調整、ベッドメイキングの目的と方法	生活に関わる業務
清潔・衣生活援助に関する基礎知識と技術	清拭、洗髪、口腔ケア、入浴介助、部分浴、おむつ交換、寝衣交換等の衣生活支援、整容の目的と方法	日常生活に関わる業務
排泄援助に関する基礎知識と技術	自然排尿・排便援助、尿器・便器介助の方法の目的と方法	
食事援助に関する基礎知識と技術	食生活支援、食事介助の目的と方法	
苦痛の緩和・安楽確保に関する基礎知識と技術	安楽な体位の補助、あん法等身体安楽促進ケアの目的と方法	
活動・休息援助に関する基礎知識と技術	歩行介助・移動介助・移送、体位変換、入眠・睡眠への援助の目的と方法	
診療・検査・処置・医薬品・医療機器・医療材料に関する基礎知識		診療に関わる周辺業務

改訂版2018 看護補助者活用推進のための看護管理者研修テキストより

聖麗メモリアル病院看護科教育担当
2021年3月作成